

優良賞

GUNMA HOUSING  
AWARD 2021

## 上並複サニ一サイド

【かみなみえさに一さいど】

設計者／KAAD設計舎

施工者／有限会社 清水総建



## 設計主旨 CONCEPT

住まいを設計することは様々な「つながり」を構築することだ。【内部と外部】、【個人と個人】、【建物と街】、【過去と現在と未来】…それらの関係性を整理し、つながりの強弱や距離感を測りながら図面に落とし込んでいく。今回の住まいもそんな作業を積み重ねながら設計を進めて行った。

敷地は郊外の住宅地の中に新規造成された分譲地で、近隣区画にも同時期に新築された住宅が建ち並ぶ。建主の要望はこの土地に「整理された動線計画」「大量の本を収納できるスペース」「趣味である自転車に触れられるスペース」といった項目を満たしつつ経済的で自分達らしい住まいを造りたいというものであった。

まず敷地と周辺環境の状況を整理した上で、敷地の中に3つの庭を設定した。1つ目は駐車スペースになる近隣に対して開いたパブリック性の高い庭である。この敷地はL型道路を内包する造成区画のほぼ中央に位置しており、敷地の道路側に背高の構造物を設けないオープンな庭を配することで、造成区画の中心にポケットパークのような空間ができる。この庭で【建物と街】をつなぐことにより区画全体に開放的な雰囲気があると共に、区画の奥まで視線が通り防犯性にも寄与できると考えた。2つ目は家庭菜園や子供の外遊びなどに使うプライベート性の高い庭。そして最後の3つ目は前述の2つの庭の中間に位置し、【内部と外部】をつなぎ、街との接点にもなる半屋外空間の庭である。この庭は

特定の用途のない言わば余白の空間であり、ここに面して建物内部にも余白の延長としての土間を配置し、グラデーション状に外部から内部へと徐々に空間を変化させてつなげることでその境界を曖昧にしている。さらに外部と内部の関係性を調整できるように複数の建具を設け、これら建具の組合せを変化させることで、気候や時間帯のシチュエーションに合わせてその時に一番心地よい自然との距離感を選択できるように考慮している。

建物内部は前述の土間を起点に外部と1・2階がつながるシンプルな空間構成とした。LDKは生活の中心であり、土間や畳スペース、階段と組み合わせながら多様な使い方に対応できる。2階ホールには造り付けの本棚を設け、家族みんなで本に親しめる空間とした。このような様々な居場所が家の中に散りばめられており、そこで【個人と個人】が各々の時間を過ごしている時も余白の空間である土間と吹抜けを介してつながることで家全体に楽しい雰囲気や伝わりおらかな空気が流れる。

この家を建築中に建主家族に新たな命が加わった。この家は家族の成長と変化をこれからもずっと受け入れていく器になるだろう。家族の記憶の中の背景として、時には家族の変化に合わせて変容し、それでいてずっと変わらない心地よい空間を残しながら、【過去と現在と未来】をつなぐ存在としてこの家があり続けてくれればと切に願う。